

令和7年度

事業計画書

学校法人 亜細亜学園

## 令和7年度事業計画について

学校法人亜細亜学園は、令和7年度事業計画を以下のとおり策定する。

### 1. 基本方針

本学園は、建学の使命及び建学の精神に基づき定めた「多様な夢に挑み、アジアの未来に飛躍する創造的人材の育成」をミッションとしている。そのミッションのもと、亜細亜大学の将来像「自立と自己実現に向けて主体的に考え行動し、相互の多様性を尊重しつつ、アジアを中心とする国際社会で活躍する人材の育成」をビジョンとして掲げ、令和4年度を期初とする「第3期5カ年中期行動計画」を推進している。

今般、急激な円安や物価高などの変化や、入試環境、特に年内入試への大幅なシフトなど、計画策定当時に想定していなかった急速な社会情勢の変化に対応していくため、計画の完成年度となる令和8年度までの行動計画を見直すこととした。

令和7年度事業計画は、この中期行動計画の目標達成に向けた行動計画の見直しを反映し、本学既存の資源を積極的に活用して、『アジア力』を高めた人材の輩出、「亜細亜大学で学びたい志願者を確保（ニーズに応える教育の充実と発信の強化）」を見直しのポイントとした。そして、「多様な学生が「共創力」「行動力」を身に付けることができる学生支援・学生参画体制の整備」に関する項目でも、見直しした各施策を確実に実施する計画とした。

また、健康スポーツ科学部設置の認可後（8月末を想定）を目途に、再度、現状の中期行動計画の進捗分析を行うこと等により、次期中期計画の土台作りにも資する事業計画を策定した。

### 2. 令和7年度重点項目 —重点化施策と具体的な取り組み—

#### (1) 国際化施策

##### 【1-1】実留学体験者数の増加と多様な国際交流機会の提供

- ・1期目となる亜細亜大学韓国留学プログラム（AUKP）実施及び検証
- ・アジア地域への留学参加者増加に向けた広報活動の強化及び新規交流協定の締結
- ・奨学金による留学参加者負担軽減策の積極周知
- ・留学参加者減少における現状分析の実施及び改善案の提案

##### 【1-2】アジア地域を体験する学生数の増加

- ・学生団体との連携による学内でアジア体験が可能なイベントの開催
- ・アジア地域の大学と授業を通じて共修できる仕組みづくりを検討・立案
- ・アジア地域のプログラムへの関心を高めるための留学体験報告会実施や SNS 等を活用した積極的広報展開
- ・アジア夢カレッジ科目に短期ベトナム研修を新規開設

### **【1-3】アジア地域からの外国人留学生数の増加**

- ・留学生別科のリクルート活動対象国拡大及び日本留学に関する意識調査の実施
- ・ASEAN 諸国留学生奨学金制度の広報活動地域拡大
- ・海外協定校からの留学生人数増加に向けた積極的な広報展開及び支援体制の充実化

### **【1-4】外国人留学生の活躍を広く学内外に周知**

- ・ASEAN 奨学生をはじめとする外国人留学生にフォーカスをあてた広報企画の展開
- ・ASEAN 奨学生の学修支援体制構築
- ・東急グループ等協賛企業との連携強化による関連企業への就職者数増加
- ・ASEAN 奨学生の卒業生ネットワーク構築

## (2) 教育・研究活動施策

### **【2-1】「面白い」授業や「役に立つ」授業の促進**

- ・「ティーチングアワード」による教員表彰の継続実施及び検証
- ・「面白授業及び役に立つ授業」の広報やニュースリリースによる認知拡大

### **【2-2】学修の到達点及び学修特性を確認できる仕組みの構築**

- ・社会学部を含めた全学的なカリキュラムマップの普及
- ・アセスメントプランに基づく各指標の分析・検証の実施
- ・学修成果可視化システムの実用性向上に向けた改善

### **【2-3】学生が社会で求められる能力や技法を修得できるよう指導強化**

- ・本学の定める基礎知識として示した「21 世紀亜細亜ベーシックス」継続実施と検証（履修者数及び成績分布等）
- ・外国人留学生を含めた学生の共創力・行動力を高め、キャリア形成を促すインターンシップ参加の支援
- ・エアライン・サービス業界採用強化のための課外講座の開講

### **【2-4】「対面」と「オンライン」の特質を生かせるベストミックス授業体制の構築**

- ・学生の受講機会を確保するため「対面」と「オンライン」ベストミックス授業体制の継続実施と検証（履修者数及び成績分布等）

### **【2-5】学生満足度向上につながる全学 DX 基礎対応の推進**

- ・教室増改修工事、太田耕造記念館改修工事、健康スポーツ科学部実験実習棟工事の計画的実施
- ・学内証明書発行機リプレイス及び証明書オンライン発行との並行運用による最適化
- ・統合認証システムの多要素認証導入と SAML 認証方式への切り替えの検討

### **【2-6】学生がデータサイエンス分野の基礎知識を修得できる仕組みの定着**

- ・データサイエンス学科設置計画履行状況等調査への対応
- ・データサイエンス学科生に関する各指標の分析・検証の実施
- ・MDASHプログラムリテラシーレベル再認定準備

### **【2-7】研究活動の外部公表促進と内部共有充実**

- ・科研費レビュー体制の整備による更なる獲得件数増
- ・研究活動の学内助成制度の見直し

- ・改正電子帳簿保存法に関する規程整備の計画的実施(令和7年10月)

### (3) 学修環境・支援施策

#### 【3-1】卒業年次生アンケートの回収率引き上げと学修環境の改善

- ・令和6年度アンケート調査結果を踏まえた学修環境の改善案を提案(30%改善目標)
- ・厚生施設の利便性向上及び学生団体支援の強化

#### 【3-2】快適で利便性が高い魅力あふれるキャンパスの構築と、迅速で親切なスタッフ対応の実行

- ・2号館南側通路の雨天時水溜り対策に伴う修繕工事の実施
- ・学友会団体所属学生増加のための仕組みづくり
- ・留学生成績不振者に対する学修支援指導の強化

#### 【3-3】学内学生団体(部・サークル)活動の学生が充実した学生生活を送れる支援

- ・学友会運営のための予算、会計管理のための支援
- ・学生健康保険互助組合制度のサービス拡大(歯科治療の対象化)

### (4) 社会連携施策

#### 【4-1】学生が企業(社会人)及び地域社会と交流する機会を増やす

- ・学生が企業・地域と交流を図るプログラムの立案
- ・ボランティア参加学生数の向上
- ・自治体の課題に対しゼミ活動と連携が取れる仕組みの構築

#### 【4-2】高校生向けアジアへの理解と関心を深める企画の展開

- ・第5回高校生アジアフォトコンテストの実施・拡充
- ・アジアをテーマに含む高等学校出張講義の積極的実施

#### 【4-3】卒業生と在校生の交流機会拡充

- ・メールアドレス収集等による卒業生との連携強化
- ・青々会(OB・OG組織)との連携スキーム構築

#### 【4-4】研究成果を地域及び社会貢献に結びつける

- ・認証評価機関による適合認定を公表するための「自己点検・評価報告書」の作成
- ・アジア研究所公開講座の更なる参加者増を図るための広報強化

### (5) 大学運営施策

#### 【5-1】認知度向上と志願者の獲得

- ・附属校に代わる高大連携協定校の増加を図る新たな入学試験制度との連携を実施
- ・各種媒体での広報活動を通じた健康スポーツ科学部の認知拡大
- ・大学公式キャラクターの作成とブランディング展開立案
- ・令和9年度を期首とする次期中長期計画の検討及び策定の実施

#### 【5-2】本学の持続的発展を支えるガバナンス体制の構築

- ・経営・リスク・コンプライアンス・監査の各体制について、具体的なPDCAサイクル

- ・ 実行し、理事の職務執行の法令・寄附行為への適合性及び業務の適正性を確保
- ・ 「学生納付金以外の収入の多様化」に向けた寄付金増収方策の策定
- ・ 債券購入計画に基づく計画的で安全性を重視した資金運用の実施
- ・ 節電活動を推進すると共に、3号館講堂等の施設貸出開始による施設設備利用料収入の増収

#### **【5-3】 DX 時代に対応可能な人材育成に資する ICT 教育環境整備及び電子化による大学事務の業務改善・効率化の推進**

- ・ 業務電子化の全学的推進及び業務改善・効率化の実施
- ・ Campus-Xs(学生情報統合システム)の機能・性能の検証とシステムを利用するエンドユーザーへのサポート支援の継続

#### **【5-4】 教育・研究活動を安定的に支える財政基盤の構築**

- ・ 新中期財政計画に基づく令和7年度収支目標の達成
- ・ 更なる財政基盤の強化に向けた施策推進及び経常収支差額 5.0%以上を安定的に確保する財政構造の構築
- ・ 財務研修の実施による全学的な理解度向上

#### **【5-5】 大学を取り巻く環境変化に対応できる事務職員の人材育成**

- ・ 変革時代に対応した部下指導・人材育成の役割を果たせる管理職の養成
- ・ 目標達成に必要な能力・専門的スキルを習得した若手・中堅職員の育成
- ・ 内部統制システムの構築に向けて、政策を策定・管理する人材の育成と学園全体の意識醸成

#### **【5-6】 武蔵野キャンパス未整備地区の将来開発に向けたキャンパスマスタープラン策定**

- ・ 健康スポーツ科学部実験実習棟建設に向けた設計・建築計画の策定
- ・ 健康スポーツ科学部開設に向けた教室増改修工事(2号館・3号館)の実行

#### **【5-7】 SDGs 実現に向けた取り組みの推進と学内外への発信**

- ・ SDGsに関する情報発信・取組推進の実施
- ・ 電気使用量削減に向けた武蔵野キャンパス、日の出キャンパス LED 化の計画的実行及び継続した省エネ対策の考案・実行
- ・ 空調一括管理システムの有効的活用

### 3. 人事

令和7年度の専任職員数は以下のとおりである。

| 教育職員（特任及び1号客員含む） |      |     |        |        |      |        |          |      | 事務職員 | 総合計  |
|------------------|------|-----|--------|--------|------|--------|----------|------|------|------|
| 経営学部             | 経済学部 | 法学部 | 国際関係学部 | 都市創造学部 | 社会学部 | アジア研究所 | 英語教育センター | 合計   |      |      |
| 50名              | 26名  | 29名 | 35名    | 2名     | 16名  | 5名     | 28名      | 191名 | 130名 | 321名 |

（令和7年4月1日時点）

### 4. 財務

#### （1）令和7年度事業活動収支予算

経常収支差額を191百万円の収入超過（経常収支差額比率：2.10%）とする予算を編成し、将来的に経常収支差額比率5%以上を安定的に確保できる財政基盤の構築を目指す。

- ・令和7年度事業活動収支予算収支概要 経常収入：9,113百万円  
経常支出：8,922百万円

#### （2）令和7年度資金収支予算

翌年度繰越支払資金を4,127百万円とする予算を編成し、新学部における教室増設や将来的なキャンパス施設の建替等に備えた資金計画を推進する。

- ・令和7年度資金収支予算収支概要 当年度収入：9,124百万円  
当年度支出：9,187百万円

### 5. 施設・設備

令和7年度の施設・設備関係予算は、合計1,305百万円である。

経年劣化が進む設備の更新計画に加え、能動的な学修を促進する教育環境の整備と充実化を継続的に進める。主な事業は以下の通り。

#### （1）2号館・3号館 教室増改修工事

- ・内 容：2号館多目的ホールの教室化、3号館小教室の什器入替等改修工事
- ・事業費：289百万円
- ・実施期間：令和7年8月～令和8年3月

#### （2）健康スポーツ科学部実験実習棟準備工事

- ・内 容：健康スポーツ科学部実験実習棟を建設するにあたり、令和9年2月竣工に向け、建設予定地及び周辺の外構部撤去工事、埋設配管盛替え工事等の準備工事を実施する。
- ・事業費：110百万円
- ・実施期間：令和7年10月～令和7年11月

(3) 空調更新工事

- ・内 容：空調が整備されていない体育館、部室棟（第一アジア会館、第二アジア会館）において、授業や課外活動で利用する学生の安全を考慮し、空調設置工事を実施する。
- ・事業費：76百万円
- ・実施期間：令和7年4月～令和7年6月

(4) 学内LED化工事

- ・内 容：電気使用量削減に向け、令和7年度・8年度にかけてLED化工事を実施する。令和7年度は、3号館、7号館、体育館、キャンパス外灯をLED化する。
- ・事業費：66百万円
- ・実施期間：令和7年8月～令和8年3月

(5) 図書館リニューアル改修工事（第2期）

- ・内 容：令和6年度の1階フロア改修（第1期）に引き続き、2・3階を学生の学修フロアとして、主体的な学びをはぐくむための環境に整備し、4階においては、書架の増設、サービスフロアの拡充を図る。
- ・事業費：80百万円
- ・実施期間：令和7年10月～令和8年3月

以 上

## 亜細亜大学中長期計画 ー新・アジア未来マップー

### 第3期5カ年中期行動計画

#### ーアジア（亜細亜）からグローバルへー

## I ミッション

建学の精神 「自助協力」

多様な夢に挑み、アジアの未来に飛躍する創造的人材の育成

## II ビジョン ー亜細亜大学の将来像

**「自立と自己実現に向けて主体的に考え行動し、相互の多様性を尊重しつつ、アジアを中心とする国際社会で活躍する人材の育成」**

### ○アジア交流の拠点となる

国際交流・国際連携を強化し、グローバル社会でリーダーシップを発揮できる高い志と行動力にあふれた人材を育成し、アジア研究・交流の拠点大学となります。

### ○すべての学生が充実感・達成感を得られる大学となる

知的関心を呼び起こす双方向的授業を軸に、学修者本位の教育体制を構築し、あわせて 多彩な課外活動の機会、快適なキャンパス空間を提供し、すべての学生が成長と満足を実感できる大学となります。

### ○社会との連携を拡充し、社会貢献を更に推進する

大学の有する資源、研究成果を社会に還元し、また生涯学習及び地域活性化を促進し、あわせて社会貢献活動を通じて、学生の問題解決力、行動力を育てます。

## III 第3期5カ年中期行動計画のスローガン・基本方針

第3期5カ年中期行動計画は、with コロナ、after コロナの状況に適切に対処しながら、Society 5.0、DX 等の急速な社会的変化に対応した教育を提供し、本学の強みである国際交流・連携の拡充により有能な国際人を多数輩出し、18歳人口の長期的減少下においても選ばれる大学となる施策を確実に実行するため、以下のとおりスローガンと7つの基本方針を定め、推進します。

### 【スローガン】

楽しい大学・面白授業・アジアと共に ～選びたくなる 亜細亜大学～

### 【基本方針】

- (1) アジア学修の浸透及び国際交流の持続展開(実留学・オンライン交流の両面体制の堅持)
- (2) 社会の変化に対応した新しい学科の開設による教育の拡充
- (3) 主体的学修力の育成強化
- (4) 楽しい大学・面白授業の構築
- (5) 社会連携活動の拡充
- (6) 広報活動の強化
- (7) ガバナンス体制の構築